市民タイムス　平成30年5月11日

みすず野

山好きというより、本好きだった。50年前（20代半ば）から読んだ本の「読書日記」をつけてきたが、その数は4000冊を超える。松本市の百瀬武さん（74）である。市内の古書店主の紹介で、美しい装丁の山の本に関心が向き、山岳図書を30冊くらい読んで、100冊ほど持とうと思い立つ◆「日本山書（さんしょ）の会」の存在を知り、入会したのは8年前。全国の会員、すなわち山の本の愛蔵家と知り合い、収集熱に火がついた。希少価値の高い本も含め、3000冊を集め、松本市立博物館に寄贈した。一人で所有していてはもったいない、活用してもらいたい、と考えたからだ◆北アルプスや上高地は、明治期から著名な岳人、文人が大勢訪れ、山行記録や物語がつづられて、いまに伝わるものの、市民が目にする機会はほとんどない。「岳都」を称する松本市だからこそ、その収集、整理、研究、公開に力を注いでほしい◆近い将来開設される新博物館には、山書コーナーを設けてほしい、と百瀬さんは切に願う。日本山書の会の総会が、上高地の由緒ある上高地温泉ホテルで、22日開催されるのを前に、そんな思いをうかがった。

2018. 5. 11